

第 16 回 日本生殖看護学会学術集会

P-6

福岡, 2018. 09. 09

不妊治療中カップルのコミュニケーション・ギャップについて ～アンケート調査から得られたもの～

Mutual misunderstanding and miscommunication in the couples under infertility treatment

○小野瞳¹⁾ 難波未来¹⁾ 小松原千暁¹⁾ 福田愛作¹⁾ 森本義晴²⁾

1) IVF 大阪クリニック 2) HORAC グランフロント大阪クリニック

I. 目的

不妊治療中のカップル間のコミュニケーション・ギャップ及び相互に必要なと考えているサポートについての質問調査を行い、その結果を解析したので報告する。

II. 方法

2018 年 4 月より 2018 年 5 月にかけ、A 院にて不妊治療を受けているカップル 91 組を対象に、28 項目からなる質問調査を実施した。来診したカップルを対象とし、看護師説明時や体外受精説明会時に、質問用紙に研究依頼書を添付し配布、治療の待ち時間に回答後、院内ポストへの返信を依頼した。倫理的配慮は、依頼書に調査目的と無記名、回答の自由、結果は学会発表する事及び個人情報保護に関する記載をしたうえで、口頭でも説明をし、同意した者の質問紙を回収した。

III. 結果

回収数は女性 61 名、男性 59 名の計 120 名、有効回答は 119 名であった。平均年齢：女性 37.5 歳、男性 38.7 歳、平均不妊期間：3 年 2 ヶ月、平均不妊治療期間：1 年 9 ヶ月であった。『不妊治療はカップルで取り組む事だと思いますか』の問いに対し、「とてもそう思う」「そう思う」が女性：100%、男性：98.3%であり、カップル相互がほぼ同様に考えていた。女性が男性に求めるサポートで最も多かったのは「心理面に関する事」31.6%であり、「不安や焦りをなだめて欲しい」「優しくしてほしい」などが多かったのに対し、男性が女性に対するサポートで最も多かったのは、「家事分担に関する事」30.1%が最も多く、「心理面に関する事」は 22.0%と、女性の求めるサポートと実際に男性が行っている事についての順位に差を認めた。

IV. 考察

女性は男性に心理面に関するサポートを求める傾向にあるが、男性が実践しているサポートは家事分担が最も多く、求められている事とのギャップが生じていることが明らかとなった。不妊治療中カップルではお互いの治療に対する認識や考えを知ることが重要であり、ギャップを修正することがカップルで協力して不妊治療に取り組む事に繋がるのでは

ないかと考えられる。

V. 結論

本調査から得られた結果を不妊治療中のカップルへ提示し、考えるきっかけを作る事がカップル間の認識のギャップを修正するための一助になると考えている。